

BPW Newsletter JAPAN

Official Newsletter of National Federation of Business and Professional Women's Clubs of JAPAN



2011.3.25
Vol. 101

【特集】
日本 BPW 連合会
2010 年度
ブロック研究会報告

CONTENTS

- 2011 年度ブロック研究会報告
 - ・北海道・東北ブロック研究会
 - ・近畿ブロック研究会
 - ・関東・山梨ブロック研究会
 - ・中部ブロック研究会
 - ・西日本ブロック研究会
- 第 27 回 BPW ヘルシンキコングレスのお知らせ
- 「APEC WLN 関連イベント in 仙台」報告
- 日本 BPW 連合会総会・山梨大会ご案内
- 「2010 年 NGO 日本女性大会」報告
- 東北関東大震災被災地への義援金募集のお知らせ
- JWLI (日本女性指導者育成事業) 2011 年度フェロー募集

日本 BPW 連合会ニュースレター
発行人：日本 BPW 連合会理事長
松原敏美・広報委員会編集

日本 BPW 連合会 事務局
〒151-0053 東京都渋谷区代々木
2-21-11 婦選会館 303
TEL.03-5304-7874
FAX.03-5304-7876
e-mail: office@bpw-japan.jp
ホームページ：
<http://www.bpw-japan.jp>

ご挨拶

特定非営利活動法人日本 BPW 連合会 理事長 松原敏美

21 世紀になって 10 年目になる今年、インターネットの普及と技術発展の影響と思われる変化が、世界を覆っています。そんななか、平成 23 年 2 月 20 日から第 55 回国連女性地位委員会 (CSW55) の開催にあわせて、平松国際委員長とともにニューヨークを訪れました。今回の旅の目的は、(1) 国際連合の女性の地位委員会と NGO パラレルイベントが実際どのように開かれているのかを理解すること、(2) BPWI に所属する各国の参加者と交流を通じて活動内容の情報を得ること、(3) 日本の国連代表部のブリーフィングを聞くことにより、女性の問題を扱う国際舞台の最前線の状況を垣間みること、(4) 新しくできた UN ウィメンの動きについてなんらかの情報を得ること、(5) JWLI (日本女性指導者育成支援事業) の発展のためにボストンを訪問すること、(6) CSW インターンの事業のこれからを考えるために、状況を把握して参考にすること、にありました。

項目ごとに、概要を述べます。

今年のテーマは教育。NGO により 200 以上のセッションが持たれ、少女や、科学技術分野の教育における女性というテーマが目立ちました。記憶に残ったのは、10 代前半の国籍もバラバラな少女たちが行ったワークショップでした。自分たちが手に入れたインターネットという手段を使い、世界中の少女が抱える問題を共有し、自分たちにできる何かについてその可能性を語る内容でした。

・スイスの BPW 連合会が引率してきた 10 名のインターンと交流の機会がありました。また、早朝から行われた BPW インターナショナル会長主催の説明会でも交流の機会があり有意義でした。また、ファルチャーさんの名前を冠した NYBPW 主催のデイナーでは、わざわざエリザベス会長が APEC2010 における BPWJAPAN の活躍を詳細に紹介してくださって大きな拍手を受けました。

・日本の国連代表部のブリーフィングを聞いたのですが、国際連合という場で女性の人権を語る場合、日本独自の伝統的な考え方にも配慮する本省との温度差や、人権と開発が別の担当者によって担われていることが、仕事をしづらくしているのであろう推察されました。

・UN ウィメン事務局長ミシェル・バチレさん (元チリ大統領) のニューヨークでの評判はよく、注目度も高いとのことでした。パワフルでわかりやすい話をされ、常に現実的な視点から発言されるからでしょう。執行理事会で戦略計画検討中とのことで、期待できそうです。

・日帰りでタイトな日程でしたが、まだ草創期の JWLI 事業をさらにすばらしいものにするためには、機会をとらえボストンの方々と話すことが何よりも大事と実感しました。

・国連本部の建て替えのために、会議をしている棟への入場が厳しく制限されました。この状態が 3 年も続くとなると NGO パラレルイベントへの参加も低調になり、相互補完するという趣旨が後退する虞も生じかねません。インターン派遣事業についても、NGO のイベントのみでよとするのか検討の余地があると感じました。

中東情勢が不安定ななかの CSW でしたが、20 世紀とは違う時代に入りつつあることが次第に見えてきた感があります。本年度も御協力のほどよろしくお願い致します。



2010 年度日本 BPW 連合会ブロック研究会報告 (開催順)

北海道・東北ブロック研究会(担当 山形クラブ)

◇日 時:2010 年 9 月 19 日(日)13 時～17 時

◇会 場:山形国際ホテル

◇参加者:100 名を超える

◇プログラム

- ・ヤングスピーチコンテスト「私と仕事・職業」
- ・パネルディスカッション「改革への挑戦・女性たちのリーダーシップ」

パネリスト:吉村美栄子(山形県知事)、和嶋未希(衆議院議員)、舟山やすえ(参議院議員)、阿部典子(山形市市議会議員)

コーディネーター:佐藤玲子 BPW 会員

- ・ヤングスピーチコンテスト講評・審査結果発表
- ・懇親会

女性が挑戦するときの覚悟は何か、得たものは何か

BPW 山形クラブ(棚田美津子会長＝会員 21 名)は2010 年 9 月 19 日(日)、山形市の山形国際ホテルで北海道・東北ブロック研究会を開催。ブロックの会員はもちろん、山形県内の一般女性も数多く参加し、100 人分の席でも足らず補助席を準備するほどだった。

山形クラブが企画したのは、BPW 会員に多数の議員がいることから、女性として選挙に挑戦することの大変さと意義深さを語ってもらおうというもの。パネリストは上記のような豪華顔触れ。コーディネーターは山形クラブの佐藤玲子会員が担当した。

吉村会員は知事選候補の話が来た時、家族が反対し吐き気が止まらないほど悩んだが、最後は家族を説得、一番強いと言われる2期目現職を破って見事当選した。また舟山会員はまだ小さい子供がいて、「議員と子育ての両立」の心配を、周囲の人々の協力でクリアした。和嶋会員は県議選トップ当選をしたが衆議院議員に転身、県連代表として力を発揮している。阿部会員は先輩の説得に応じて教育界から転身したいきさつを語った。

いずれも世間でいう、「女で大丈夫か」、「女にできるか」、「家庭はどうする」などの無言のプレッシャーをさわやかに

かわす秘訣を披露し、女性の選択肢が広がったことを実感させた。

また、ヤングスピーチコンテストは断トツの評価で、山形市の寿賀紘子さんが最優秀賞となり、6月の全国大会参加資格を手にした。



山形新聞 2010 年 9 月 20 日

今回の研修会は、交通の便が良かったこと、企画が良かったこと、会費もリーズナブルだったこと、そして何より会員のバイタリティーが評価された。

近畿ブロック研究会(担当 和歌山クラブ)

◇日 時:2010年10月17日(日)13時半～16時

◇会 場:和歌山ビッグ愛

◇テーマ:変革への挑戦

◇参加者:75名(一般39名)

◇プログラム

- ・開会挨拶 BPW 和歌山クラブ会長 小原智津
- ・主催者挨拶 日本 BPW 連合会理事長 松原敏美

第1部

- ・講演「脳からみる日本のリーダー」～戦国武将とその妻たち～ 講師:板倉徹さん(和歌山県立医科大学理事・学長)
- ・ホッとひといき ティータイム&フラメンコギター、ギター奏者: 棕野悦和さん

第2部 ヤングスピーチコンテスト「私と仕事」

- ・審査委員長講評 日本BPW連合会企画委員長 土田アイ子

《講演要旨》

織田信長や徳川家康など戦国武将がどんな行動をとってきたか、武将の脳を解析しながら、リーダーの資質や理想のリーダー像を脳科学の面からお話いただきました。また、リーダーであった武将と同じような脳をどのようにつくることができるか、脳の鍛え方、頭脳を活性化する方法についても学びました。

戦国武将に学ぶリーダーの脳としては、信長から独創性、秀吉から共鳴脳、家康の忍耐脳、謙信の自己決断を学んで、脳の回路を活性化させることにより、理想のリーダーを目指すなどのお話がありました。

《ヤングスピーチコンテスト》

- ・岡田 裕加さん 幼稚園教諭
- ・榊原青(李 青)さん(京都クラブ推薦)(株)襟秀 勤務
- ・藤野 雅美さん 会福祉士
- ＊審査結果:最優秀賞 岡田裕加さん(大阪クラブ)



関東・山梨ブロック研究会（担当 山梨クラブ）

◇日 時:2010 年 11 月 20 日(土)13 時半(受付 13 時)

◇会 場:甲府市 甲府ホテル

◇参加者:40 名

◇テーマ: 変革への挑戦

◇プログラム

・開会挨拶 BPW 山梨クラブ会長 深沢公子

・主催者挨拶 日本 BPW 連合会理事長 松原敏美

第1部 ヤングスピーチコンテスト「仕事と私・職業」4 名参加

第2部 講演「変革への挑戦・女性のリーダーシップ」

～日本の教育とニュージーランドの教育の違い～

講師 えり子・マクリーンさん

第3部 ヤングスピーチコンテスト表彰式・講評

懇談～えり子・マクリーンさんを囲んで

《ヤングスピーチコンテスト》

全体を通じて多様な社会にふさわしい人材がそうことが望ましいが、今回もそれぞれ異なる思いを持ってスピーチされていた。



《講演要旨》

日本を離れ、現在ニュージーランドで大学や高校に留学を希望する生徒

たちのための準備校として語学学校「EVAKONA」を創設した。ニュージーランドでは豊かな自然の中で、自分らしい人生を見つけるための教育を実践している。これからの日本を背負っていく子どもたちに必要な教育は、自分の特技は？自分の好きなことは？社会に役立つことは？など自分を見つめ、自分らしく生きるための個性を尊重した教育であり、“感謝する心”を養うべきである。教育の根本は“認めて、ほめて、愛して、育てる”ことである。

中部ブロック研究会（担当アイリス東海）

変革への挑戦 ～働き方を創造し、社会を変える～

◇日時:平成 23 年 2 月 5 日(土)午後2時～午後4時半

◇会場:中日パレス

◇参加者:57 名

◇プログラム

第1部 ヤングスピーチコンテスト「私と仕事」

第2部 講演「起業という名の働き方 ～パラダイム・シ

フトへの眼差し～」関戸美恵子氏 特定非営利活動法人起業支援ネット理事／ファウンダー

《内容》

ヤングスピーチコンテストには、4 人の方がエントリーし、堂々と自分の考えをスピーチしました。厳正な審査の結果、小学生以来の夢である教員になるために、積極的に様々な経験を積み、悩みながらも子どもたちに真正面から向かう覚悟をし、4 月から小学校教員になるという方が、最優秀賞に選ばれました。



起業支援ネットの関戸さんによる講演は、「女性の起業」という視点から、社会の価値や枠組を転換することの意義を示唆されるものでした。

現代社会に求められるのは自分の生活の身近な部分の変革であり、「コミュニティ・ビジネス」には、その「身の丈の事業」が求められる。女性の起業の多くがコミュニティ・ビジネスであり、パラダイム・シフトを行いやすい。しかし、持続可能な発展には、行政や大企業を含めた全ての組織が「当事者意識」を持って、「利他」の感覚で地域と関わる働き方をしなければならない。「速く、大きく、強く」という価値観を「ゆっくりでよい、小さくてよい、強くなくてよい(弱さを絆にする)」と転換していきたい。

このように話される中に、これからの新しいコミュニティを創出するしなやかさを感じ、私たちも「当事者」として地域社会に関わっていかなければならないことを強く感じました。

西日本ブロック研究会（北九州クラブ）

◇日 時:平成23年2月12日(土)13時～17時

◇会 場:ステーションホテル小倉 吉祥の間

◇参加者:91 名(一般 49 名)

◇テーマ:変革への挑戦 女性たちのリーダーシップ・アドボカシー・行動「ワーク・ライフ・バランス」～働き方の変革に向けて～

◇プログラム

第1部 ヤングスピーチコンテスト「仕事と私～輝いて働き続けるために、今、私が挑戦していること～」

第2部 基調講演&パネルディスカッション

・基調講演 テーマへの問題提起～より良い生き方とし

ての働き方を探る 講師:花崎正子氏 日本 BPW 北九州クラブ会長

・パネルディスカッション「ワーク・ライフ・バランスは人生設計～男女様々な立場からの実践と課題～」

パネリスト：廣塚謙良氏 元TOTO株式会社CSR企画室長、村田国吉氏 地方公務員、安東崇夫氏 (社)北九州青年会議所2011年度総務室副室長、泉優佳理氏 日本BPW 北九州クラブ会員



コーディネーター：花崎正子 日本BPW 北九州クラブ会長

雪まじりの強い風が吹く悪天候で、参加者が心配されたが、

来賓北九州市長を迎え、連合会役員、西日本ブロック会員の方々はもとより、一般・学生などの参加も多数あり、盛会となった。

第1部のヤングスピーチコンテストは、北九州市在住の外国人市民2人も加わり、「働くということ」を、さらに多文化共生という視点からも捉え直す機会となった。

第2部の基調講演では、社会の急激な変化の中で、ワーク・ライフ・バランスの実現に求められているのは、「働き方」の変革であり、そのためには、「働くということ」を「人が生きる」というトータルな視野で捉え直し、よりよい「生き方」価値を創造し、それを生活に具体的に展開することの必要性を提起した。続いて、パネルディスカッションでは、パネリスト4名から、それぞれの立場における「働き方」の変革への取り組みの現状と課題、最後に提言をいただき^{注)}、それぞれ示唆に富むものであった。提言の一つに、今後さらに、このような「横断的・重層的“会”」を実施して社会にアピールすること^{注)}というものがあつた。

^{注)} [専業主婦後40歳代で起業した女性。50歳代元大企業CSR企画室長男性、妻のトップへの昇進を機に退職、主婦業の大変さ実感。40歳代男性公務員、家事・育児の夫婦平等分担を実現。30歳代男性設計事務所経営者、家事・育児はできる方が分担、社会活動の重要性・働くことは生きることを実感 など]

第27回 BPW世界総会 ヘルシンキ・コンgres 2011年6月17日～6月21日



早期申込み割引(3月31日迄)

5日間パス 650ユーロ

(オープニング・セレモニー、ギャラ・ディナー、さよならパーティーが含まれます。)

3日間パス 300ユーロ

(自分の好きな3日間を選べます。)

<http://www.bpw-international.org/eve>

APEC WLN関連イベント in 仙台

地方発! 「女性と経済」

～地域を変える女性起業家たち～
女性の元気が日本経済を元気にする!

- 開催日:2010年11月27日(土)
- 時間:13:00～16:30(受付12:30～)
- 会場:エル・パーク仙台 スタジオホール
- 主催:内閣府・男女共同参画推進連携会議
特定非営利活動法人日本BPW連合会
- 後援:宮城県・(財)仙台男女共同参画財団
- 協力:農林水産省東北農政局・(社)農山漁村女性・生活活動支援協会
- プログラム
 - ・第1部事例報告者 兼 第2部パネリスト
萱場市子氏 農家レストラン「もろや」オーナー
渋谷文枝氏 農家レストラン「ふみえはらはん」経営
新聞さとみ氏 さとみの漬物講座企業組合理事長
庄子知秀氏 (株)藤崎 食品部商品担当係長
 - ・第2部 コーディネーター 斎藤恭子氏 (社)農山漁村女性・生活活動支援協会 専務理事

日本BPW連合会は、2010年9月に東京で開催されたAPEC WLN(女性リーダーズ・ネットワーク)会合(BPW ニュースレター100号 Web版参照)に引き続き、WLN関連イベントとして、11月27日、仙台で「地方発! 女性と経済」を開催しました。これはWLNのテーマである「女性による新たな経済活動の創造一人・自然・文化を活かす」にあわせ、「農村からの発信」として、東北を中心に活躍する女性やそれを応援する方による、事例報告及びパネルディスカッションを、日本BPW連合会が企画したものです。農村女性の起業活動を理解してもらい、地域の食のネットワークづくりから、地産地消や食料自給率の向上、さらに農村や農業者間に留まらない、女性の経済活動への参画、男女共同参画社会の推進への理解を深めてもらうことを目的としたものです。参加者は122人。活発な意見交換が行われました。

シンポジウムを通して、「食」という誰もが関心を持つテーマと、地元のパネリストを招いたことにより、多くの参加者の共感を呼ぶことができました。女性の起業家が事業を拡大し、地元を活性化するにあたっての問題点及び解決策も共有でき、一人ひとりが、より身近な問題として、女性の経済活動への参画及びその成功が、地域社会の経済活性化に貢献し、男女共同参画社会の推進につながる、ことへの理解が深まったようです。

参加者からの意見として、エネルギーと個性に満ち溢れたパネリストに、また山形弁や宮城弁が出てくる親近感



のもてるパネリストの方々に、様々な面から農村、女性、起業について学ぶことができたよかったという意見がきかれました。また、ないものねだりではなく地域の幸や人材・風土など、あるものを生かしなが、地域内の経済循環、雇用(働く場)づくりに取り組む姿に、「命をつなぐ」という使命も担っていると感じたという意見、こうした女性起業の活動が男女共同参画社会の形成につながるきっかけとなることを望んでいるといった意見が聞かれました。

そして最後に、①女性の社会参画の実現にむけた、女性自身の経済力と行動力の育成と、意欲的に活動できる環境整備への働きかけ、②ワーク・ライフ・バランスを進める

ための社会的インフラ、③女性起業に当って利用しやすい資金、融資制度、④就労・経済活動の停滞の解消、⑤女性が長く働き続けられるための、男性・企業の協力・意識改革の促進、⑥実践をととした意識づくりのための、成功事例の発信・共有、交流の機会をもつことなどがまとめられました。

特定非営利活動法人 日本 BPW 連合会総会・山梨大会 ご案内

【日時】2011 年 6 月 4 日(土)
開場 12 時 開会 13 時
2011 年 6 月 5 日(日)
開場 8 時半 開会 9 時 閉会 12 時

【場所】ホテル談露館
甲府市丸の内 1-19-16

【基調講演】「変革への挑戦～地域でも、世界でも～」
講師：小澤幸子さん ハイチ友の会代表
山梨市立牧丘病院内科医師
山梨での NGO のリーダーとして活躍する小澤幸子さんとともに、社会をどう支え、どう変えていくことができるかを考えましょう。

【参加登録料】会員(15,000 円) 同伴者(10,000 円)

【問い合わせ先】BPW 山梨クラブ事務局
甲府市住吉 3-16-23
Tel/Fax:055-232-0547

2010 年 NGO 日本女性大会

2010 年 12 月 4 日(土)10 時

第一部「ジェンダーギャップ解消への挑戦」

第二部「貧困・格差のない平和な社会を」

於 科学技術館地階 サイエンス・ホール

2010 年 12 月 4 日、国際婦人年連絡会(加盟・全国組織 38 団体-BPW を含む)は標記の大会を東京・千代田区のサイエンス・ホールで開催した。参加者約 500 人。入口の団体コーナーには、それぞれの活動を知らせるメッセージや資料が展示された。BPW は Equal Pay を中心に活動資料など展示した(写真左下)。

プログラムは、元日本 BPW 連合会会長・平松昌子連絡会世話人を実行委員長として会を重ね連絡会のメンバーによって作成された。

当日は、午前 10 時に山口みつ子連絡会世話人の開会のあいさつで始まり、来賓あいさつは、岡崎トミ子男女共同参画担当大臣、映像メッセージは、UN ウィメン事務局長ミシェル・バチェレ、基調報告は、橋本葉子連絡会世話人が行った。次いで、映像「女たちは歩き続ける」(1975～2010)は BPW が担当した。

パネルディスカッションは、メインテーマを 1. と 2. に分けて、会場からの参加も得て、熱心な討議が行われた。

最後に今後 5 年間の NGO 行動目標の報告、女性差別撤廃条約選定議定書の早期批准や民法改正を掲げた大会決議の採択、そしてフィナーレと午後 4 時過ぎに閉会した。



東北関東大震災により被害にあわれた皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、犠牲になられた方々とご遺族の皆様に、深くお悔やみを申し上げます。

BPWI のエリザベス会長はじめ世界中の BPW メンバーからも、このたびの被害を心配し、協力申しでと心からの励ましのメッセージが寄せられています。

日本 BPW 連合会では、被災地の皆様を励まし、復興に役立てていただくために、下記のように義援金の口座を開致しました。できるだけ多くの皆様のお気持ちをお待ちしています。

【郵便局から振込む場合】

記号 10080

番号 32423911

(ATM では、最後の1は不要)

口座名 トクビニホンビーピーダブ
ルレンゴウカイ

【銀行から振込む場合】

ゆうちょ銀行

店名〇〇八(読み ゼロゼロハチ)

店番 008)

普通預金

口座番号 3242391

口座名 トクビニホンビーピーダブ
ルレンゴウカイ

尚、協力下さった方々のお名前・募金額の発表や、領収証の発行をしないことを御了承の上、ご協力願います。
ご支援いただきました義援金の使用方法につきましては、今後このニューズレター又はホームページにて報告させていただきます

編集後記

大変なことになりました。日本観測史上最大の大地震、そして大津波。更に原発問題。被害にあわれた皆様のことを思うと、ただ心の痛む思いです。心よりお見舞い申し上げます◇自らも被災された中で BPW 東北ブロックの会員の皆様が支援に駆け回っていらっしゃると思います。私たちも微力ながら義援金を募り協力したいと思えます。皆様からの支援をお待ちします(上記参照) ◇ブロック研究会報告では、担当クラブ会長の皆様のご協力に感謝申し上げます◇JWLI フォーラム中止。休み・睡眠返上で準備してきたチームの努力が、どうぞ明日につながりますように。(やなぎしたまちこ)

JWLIフェロシップ募集のお知らせ
(女性指導者育成支援事業)

JWLI は、社会に変化をもたらすリーダーを目指す女性達を支援するプロジェクトです。

この事業は、アメリカ・ボストン在住の日系フィランソロピスト(慈善事業家)が、母国日本の女性達のために立ち上げた研修フェロシップです。

これからは日本もアメリカの様に NPO(非営利団体)が社会を支え、女性が変わる世の中に変化をもたらす大きな力となる時代が来るはずで。

このプロジェクトの目的に沿ってボストンでの研修を希望する女性を募ります。

女性リーダーが日本を支える…非営利分野で活躍を!

応募資格:

- 1) 年齢: 28才以上の日本女性
- 2) 5年以上の実社会での社会経験(非営利分野、ビジネス分野、公的機関などを含みます)を有する方
- 3) 帰国後、確固たるヴィジョンと夢をもって社会貢献活動や、自らの社会活動に意欲をもつ方
- 4) 現地での実習に必要な英語力(コミュニケーション、レポートなど)を有する方

応募締切: 2011 年 4 月 30 日(土)

募集人数: 若干名

(2009 年、2010 年は各 4 名)

必要書類:

- 1) 履歴書 (英文及び日本文)
- 2) 英文エッセイ (A4 で 2~3 ページ)
内容: ボストンで学びたいテーマとその理由及び帰国後の具体的な社会貢献プラン
- 3) 英文推薦状 (A4 1 枚、推薦者 1 名...所属する組織、会社、NGO/NPO 等役員等の推薦)

滞在期間: 2011 年 9 月 5 日(月)~9 月 30 日(金)

その他: J1 ビザの取得が必要です

滞在期間中の、研修に関わる学費・宿泊費・食費・交通費などは支給されますが、ボストンまでの旅費・ビザ取得のための費用は自己負担となります。

選考結果は、全員に 6 月初旬頃メール予定です。

<研修内容及び申し込み方法は BPW ホームページをご覧ください>

<http://www.bpw-japan.jp/japanese/jwli.html>

4 月 9 日(名古屋)、11 日(横浜)に開催を予定していましたが「2011 年 JWLI フォーラム」は、パネリストの方々が米国政府の渡航勧告に従い、来日を見合わせる事になったため、残念ながら中止と決定いたしました。

